

2020年10月8日

町民無視の片岡春雄町長に抗議します！

子どもたちに核のゴミのない寿都を！町民の会

本日、片岡春雄寿都町長は高レベル放射性廃棄物最終処分場の文献調査への応募を表明しました。私たちは、昨日「寿都町における特定放射性廃棄物最終処分施設建設地選定に関する文献調査への応募に関する住民投票条例」の制定を請求する署名を提出しました。有権者の50分の1以上にあたる214人の署名をいただきましたので、今後、選挙管理委員会での審査を経て、町長が町議会に付議することになります。地方自治法に則った手続きがすすむなか、その住民投票が問うている政治判断を下すのは言語道断です。

「私の肌感覚では町内の過半数以上の賛成を得られていると感じる」として、片岡町長は住民投票については否定的な見解を出してきました。しかし、賛成・反対のどちらが過半数を占めているのかは、肌感覚ではなく、住民投票によってしか分からないはずです。私たちは、あくまでも住民投票の実現を求めます。そして、このような暴挙を行った片岡町長に厳重に抗議します。

今日の決断の影響は、寿都町だけにとどまるものではありません。近隣町村にとっても、北海道にとっても大きな問題です。寿都町の皆さん、北海道の皆さん、ともに抗議の声をあげてください。

また、消費者の皆さんにお願いしたいことがあります。片岡町長の応募が決定的と報じられて以降、寿都町の水産加工業者には消費者の皆さんから厳しい声がこれまで以上に届くようになってきました。「佃煮はもう買わない」「ふるさと納税はもうしない」などと言われます。私たちは、文献調査の応募には断固反対しています。どうか、そのことを理解してください。そして、寿都の水産加工品をこれまで通りご愛顧ください。観光にもいらしてください。寿都の美しい海は、私たちがなんとしても守っていきます。よろしく願いいたします。

最後に、昨日発表しましたが、元内閣総理大臣であり、原発ゼロ・自然エネルギー推進連盟顧問でもある小泉純一郎さんを11月3日に寿都にお招きして、講演会を開くことになりました。

私たちは、町民の会を結成するにあたり、政治的に色のついた活動はしないでおこうと申し合わせました。私たちは支持政党も異なりますし、政治的テーマについての意見もばらばらです。ただ、「私たちの住む町に核のゴミなどいらない」という意思だけは共通しています。

小泉さんは、総理大臣として、また自民党総裁として、かつては原子力政策を推進する立場にありました。しかし、福島事故ののち、それまでの考えを180度転換され、現在は原発ゼロ・自然エネルギー推進連盟顧問として、各地でさかんに講演活動をなさっています。保守だから原発賛成、革新だから原発反対、というありがちな偏見とは無縁な方です。むしろ保守だからこそ、自分たちの住む故郷を大事にするという考えなのだ、それが健全な思想なのだ、小泉さんを見ていて、私たちは感じます。

おそらく、この問題が持ち上がるまで、地名を知ることもなかったであろう寿都町に、小泉さんは遠路はるばる来てくださいます。地層処分の文献調査に「No!」と言うためにです。

私たちの町では、いま、反対の声をあげたくても、それぞれの立場や職場環境など、いろいろな理由が重なって、反対の声をあげられない方が多数いらっしゃると思います。しかし、自分だけではなく、子どもや孫、そのずっと先の世代にまで影響するほどの大きな問題に対して、自分の思いを口にできない環境が、健全な町の状態であるはずがありません。小泉さんの講演は、町民に大きな勇気を与えるものになると信じています。